

I 学校経営 第1分科会「経営ビジョン」運営概要

【研究課題】 創意と活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方

【研究の視点】 1 将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

I 分科会研究協議の運営計画

今日、知識基盤社会や情報化・グローバル化の進展とともに、少子高齢化、地域社会のつながりや支え合いの希薄化、家庭の孤立化などの様々な課題に直面している。将来的には、“人工知能（AI）の進化により人間が活躍できる職業はなくなるのではないか”“今学校で教えていることは時代が変化したら通用しなくなるのではないか”といった不安の声もある。これからの学校には、変化が激しく予測が困難な時代にあっても、子どもたちが自信を持って自分の人生を切り拓き、より良い社会を創り出していくことができるよう、必要な資質・能力をしっかり育てていくことが求められている。そのために、校長は、これからの時代に求められる資質・能力について、学校と家庭・地域が共通理解して学校教育を推進できるようにするとともに、未来を見据えた明確な学校経営ビジョンを示し、活力ある学校運営を行い、学校改善に向けて絶えず評価・刷新し推進していかなければならない。

様々な教育課題の改善や改革が急速に進行している状況においては、校長は、まず、自校の実態から課題を明確にすることが大切である。そして、不易の部分をつまみつつ、流行の部分にも十分に目を向け、重点化と効率化を図りながら実効性のある解決を図ることが重要である。さらには、教職員が自信と誇りをもち、学校教育を推進していくように組織を効果的に動かしていく必要がある。加えて、学校は、保護者や地域の人々と課題を共有し、地域の中で揺るぎない存在となることが何よりも重要である。今、校長には、時代の潮流を的確にとらえる先見性と教育活動全般にわたる力強いリーダーシップの発揮が求められている。

本分科会では、子どもたちが生きる未来社会を見据えた明確な学校経営ビジョンをもち、創意と活力に満ちた学校経営を推進していくための具体的方策と成果を明らかにする。

視点1 将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

- ・学校経営ビジョンを前面に掲げ、その具現化のため方策を明確にした取組のあり方
- ・学校の責任者としての展望をもち、社会の変化や教育改革の方向性を踏まえた取組のあり方

視点2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

- ・教職員が未来を見据え、自らの使命感と高い指導力に基づいて子どもを育成する取組のあり方
- ・他者への共感や思いやりを備え、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造し、未来社会を生き抜いていける子どもを育成する取組のあり方

II 昨年度までの成果・課題

【成果】

研究の視点1

- 1 児童の実態、地域の特性、社会の変化や教育の方向性等から課題を明確にし、目標実現の具体的な手立てや道筋を示した経営ビジョンを策定することの重要性が確認された。
- 2 学校経営ビジョンの策定にあたり、教職員の課題意識、保護者や地域住民の願い、子どもの実態に関する現状把握を校長が的確に行い、リーダーシップを発揮して共有を図る重要性が確認された。

研究の視点2

- 1 確かな子どもの未来を実現するために学校が果たすべき役割を具体的な目標指標として明確にした学校経営ビジョンを策定しその目標達成を図る学校経営を推進することの重要性が確認された。
- 2 目指す到達点と達成のための方策を明確に示すこと、一人一人の教職員に達成するやりがいや意義を感じさせるとともに、目的実現に向けた行内の協働体制を構築することが重要であり、そのための校長の力強いリーダーシップと指導性が必要であることが確認された。

【課題】

研究の視点1 ～ 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け学校教育を通じて社会と連携・協働しながら児童に必要な資質・能力を育む経営ビジョン策定の在り方

研究の視点2 ～ 経営ビジョン実現に向けた教職員一人一人の経営参画意識の醸成と力量形成の在り方

Ⅲ 研究発表の概要

研究発表者 石狩地区 千歳市立祝梅小学校長 吉田 篤弘
発表題 時代の要請に応える創意と活力ある学校経営の推進
～未来を見据えた学校経営ビジョンの策定とビジョンの実現に向けた取組～

発表の要旨

本提言では、今年度の石狩管内小中学校長会の研究協議題「時代の要請にこたえる創意と活力ある学校経営の推進」をもとに、石狩管内全体で課題に対する視点を明確にし、組織的・継続的な研究を推進してきたことを発表する。校長は子どもの未来を見据え創意ある学校経営ビジョンを描き、目的実現のための具体策や道筋を明らかにして組織的・協働的な学校体制を構築していくことを中心に論が展開されている。その中で、家庭や地域との連携を考慮して、わかりやすい言葉を用いた学校経営ビジョンの策定について取り上げる。また、教職員の共感と納得を大切にボトムアップの方向でやる気と自信を持たせることを念頭において、ビジョンを実現する取組等を通して、「将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定」について実践例をもとに研究発表する。また、小中一貫教育やコミュニティスクールの取組を題材として、石狩管内での実践例を通して、「学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進」について、教職員の経営参画意識を醸成し、教職員の資質能力向上を実現する校長の指導性や在り方についても発表する。

Ⅳ 協議の流れ（13：00～16：30）

1 開会・日程確認（5分）	7 休憩（10分）
2 担当者紹介・司会者挨拶（5分）	8 グループ討議（40分）
3 名刺交換（3分）	9 全体討議（40分）
4 趣旨説明（7分）	10 研究協議のまとめと今後の課題（7分）
5 研究発表（30分）	11 司会者挨拶（3分）
6 研究発表についての協議（60分）	12 閉会の言葉
質疑（5分） グループ（55分）	13 連絡

Ⅴ 討議の柱

視点1 未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、児童に必要な資質・能力を育み、自校の「課題」を明確にし「経営ビジョン」の策定をどのように図るか

視点2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

経営ビジョンを具現化する組織づくりと、教職員一人一人の経営参画意識の醸成と資質能力の向上の在り方をどのように行うか

キーワード 戦略・戦術 エビデンス グランドデザイン 共感・納得
家庭・地域連携 経営理念 学校経営プログラム ボトムアップ
CS（コミュニティスクール） 地域学校協働本部事業 小中一貫教育

Ⅵ 第1分科会に参加される皆様へお願い

- 1 趣旨説明の前にグループ内で名刺交換する時間をとりますので、名刺を10枚お持ちください。
- 2 資料をお持ちになる方は、10部お持ちください。

グループ討議で自校の資料を紹介したい場合は、皆様が作成した本年度の「学校経営方針」をグループ内人数分として、A4版1枚（両面印刷可）程度の分量で10部お持ちください。

- 3 グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきまは、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿（座席表）を掲載しますのでご確認ください。司会・記録を担当していただく方につきまは、当日のグループ討議の進行・記録をよろしくお願いいたします。